

日程第2 . 一 般 質 問

議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は13人ですが、議事の都合上、本日5人、20日5人、21日3人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き1人30分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

なお、質問は通告の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、通告順に発言を許します。

中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。〔9番 中村 実君登壇〕

9番（中村 実君）

おはようございます。

創生クラブの中村です。

まず最初に、今回の質問は、私の所管する建設産業常任委員会にかかわる質問ではありますが、市民の生命・財産にかかわることから、あえて、この場所で質問させていただきます。

それでは、1回目の質問、防災及び災害対応について伺います。

1、防災・災害対応について。

先月の21日に、姫川河川敷で大々的に開催された姫川・関川総合水防演習は、21年前の7.11水害の記憶を次世代へ語り継ぎ、水防災意識社会の再構築に向け理解を深めるとともに、水防体制の強化を強めるための演習だということですが、既に7.11水害を知らない人も多くなってきました。

また、東日本大震災から5年の歳月がたち、あの恐ろしい出来事も少しずつ忘れかけ始めたときに、またしても熊本地震が発生し、50人ものとうとい命が失われました。

過去の国内においては、このような大きな地震や豪雨は100年に一度、または50年に一度というサイクルで発生してきたと思いますが、近年では異常気象のせい、5年もしくは3年ほどで発生するようになり、世界規模で見ると、ほぼ毎年どこかで地震や豪雨などの大災害が発生しています。

当系魚川市においては、7.11水害の後にはこれといった大きな災害も発生していませんが、いざ地震や豪雨に見舞われたら、多くの死者を出すおそれのある地域が点在していると思います。

その中の1つとして、筒石・徳合地区ののり砕工があります。

この地区の裏山は切り立ったのり面になっており、昭和63年から平成12年までの間、斜面の侵食や崩壊防止を目的に、国内でも類を見ない5.9ヘクタールという膨大なのり砕工の施工をしていただきました。

この工事のおかげで、斜面からの崩壊や雪崩の発生もなくなり、安心していたところではありませんが、昨年より、県の現地点検調査が始まり、後日この調査結果に基づき、のり枠補修工事の説明会が開催され、多くの地元関係者の出席がありました。

この工事は新潟県の発注であり、糸魚川市として直接関係はないものの、地元住民の安心安全のために、糸魚川市としてどのようにかかわっていくのか伺います。

また、あわせてその他の防災・災害対策について何点か伺います。

- (1) 筒石・徳合地区における県の説明会は何回開催され、治山施設の点検と修繕対応についての説明を、市担当職員はどのように受けとめたのか伺います。
- (2) のり枠工直下に人家が連担する筒石地区の緊急点検、定期点検はどのように行われているのか伺います。
- (3) 今後の補修方法と安全対策について伺います。
- (4) 糸魚川市内において、地震時の構造物及び落石による危険箇所の把握はできているのか伺います。
- (5) 糸魚川市において、大震災が発生したときのボランティアの受け入れ態勢はどのようになっているのか伺います。
- (6) 木造耐震改修工事支援事業の進捗率と耐震シェルター・防災ベッドの申し込み状況は進んでいるのか伺います。
- (7) 最近、新潟焼山の噴火量が非常に多く、警戒レベルこそ変わりませんが、地域住民はもとより多くの市民が不安を感じています。現状の内容と、今後の予想はどうなのか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

中村議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、机上・現地、合わせて7回の説明会が行われており、詳細な説明が果たされたと思っております。

2点目につきましては、実施要領によりまして、定期点検は5年に1回、緊急点検は震度4以上の地震等を観測した場合に、原則、目視で行われるといたしております。

3点目の地元が要望している機能強化対策につきましては、現在調査中であり、雨期の状況を確認した後、工法の検討を行うということで説明を受けております。

4点目につきましては、市が管理する道路施設、治山施設等の危険箇所について把握をいたしております。

5点目につきましては、県など関係機関と連携し、社会福祉協議会が中心となって災害ボランティアセンターを設置し、ボランティアを受け入れてまいります。

6点目につきましては、耐震シェルター・防災ベッドを含めた支援事業のPRチラシを、先月、全地域に回覧し、あわせてホームページで周知をいたしております。

6月16日現在で、耐震診断の申し込みが8件となっております。耐震シェルター・防災ベッドについてのところは、今のところ申し込みありません。

7日目につきましては、今年5月に火山性地震が増加いたしました。その後、減少傾向となっております。今後も噴火の発生を警戒し、火山活動の変化に注意をしていくとともに、関係機関と連携いたしまして、防災対応に当たってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくようお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

それでは2回目の質問に入ります。

県の説明会は第1回目、大変、専門用語が多くて、上から目線の説明であるということで、住民から相当な反発が買われたようでありますが、私も2回目の説明会、そして現地説明会を傍聴しましたが、その後は県の説明会も大変、理解しやすくわかりやすい説明を受けたというふうに思っています。

また、先週の土曜日に地元工事説明会が開催され、協議会役員24名が参加をし、双眼鏡を使い異常がないか確認を行い、異常を見つけたときにはのり枠工点検チェックシートに書き込み、報告を行うシステムを確立されるなど、地元目線の対応に協議会の皆さんも、大変喜んでいるということでもあります。

この地元説明会も、またあす開催され、あすで説明会が8回目、現地が4回目になるわけですが、今後の説明会はどのように進めていくのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

おはようございます。

今、議員のほうからお話がありました直近での説明は、地元住民の皆さんが自主的に点検をされる体制ができてまいりまして、どのような点を中心に巡視をすればいいかということにつきまして、県のほうから説明を受けた内容でございました。

補修工事の説明につきましては、直近では5月23日に補修工事の説明がございまして、なおかつ地元のほうから要望を受けております斜面監視のシステムについても説明をいただいたわけでありまして。

今後につきましては、梅雨の時期の状況を確認し、地元から要望が出ております機能強化対策について、調査結果を踏まえて工法を検討し、説明させていただくというふうな予定を聞いておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番(中村 実君)

この説明会というのは、今の工事中だけの説明会で終わるのか、工事が終了しても定期的にこの説明会をやっていくという予定なのか。また、この説明会に際しては、もし進めるとしたら県が主導でいくのか、市もかかわっていくのか、その辺をお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長(齊藤 孝君)

補修工事につきましては、予算の関係もございますけれども、長期にわたるものというふうにご考えておりますし、工事期間中の監視体制、それから巡視体制、工事が終わった後の監視体制、それらも含めまして、地元との説明会のかかわりは密に持っていきたいというふうにご考えておりますけれども、常に糸魚川市が窓口となって地元と県と一緒に、説明会の場をセットするように進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

中村議員。

9番(中村 実君)

工事も進んでいけば、現場の人たちからの情報ももらえるかと思っておりますので、その辺もあわせて、現地に入っている直接仕事している人たちの声も聞いて、進めていっていただきたいと思っております。

次に、筒石地区では自治会とは別に、地域住民で組織する筒石地区治山工事安全対策協議会を設立し、地域住民の生命・財産を守るために、治山施設の強靱な機能強化の声を県に届けていただきたいということで、要望書が市長宛てに提出されております。市長は地域の声をどのように受けとめ、県に伝えていただいたのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長(齊藤 孝君)

昨年の12月8日に初めて工事の説明会を受けたわけでございます。それを受けまして、市のほうといたしましては、翌年の1月5日に速やかに、新潟県のほうに要望書を提出させていただきました。その後、今、委員のほうからお話がありましたように、地元のほうでは自治会組織とは別に対策協議会が組織されまして、協議会長名で米田市長のところへ、要望書をお届けいただいたわけでありまして。

要望の内容につきましては、現在の治山施設を早期に補修して、なおかつ防災・減災を柱とする治山施設の機能強化対策を、県に対して地元の声を届けてほしいという要望の旨をいただいたわけでご受けまして、それを受けまして5月16日付でございますけれども、中村県会議員とともに米田市長が県のほうへ要望書をお届けして、生の声を伝えてきたという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

私と、建設産業常任委員長の大滝議員と五十嵐健一郎議員が、紹介議員ということで一緒に伺ったわけですが、市長のほうからも、大変、温かい言葉をいただきました。ぜひ、今後も続けて要望していただきたいと思いますというふうに思っております。市長、またよろしく願いいたします。

次に、こののり枠工は民家に隣接している施設としては、国内最大級の5.9ヘクタールということで、大変、広いのり枠であります。今回、県で最重点施設に位置づけ、震度4以上の地震があった場合、目視で点検を行うということですが、こののり枠は震度幾つまで耐え得るということで、県は考えてるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

それで、今のご質問でありますけども、同様の質問につきましては、12月28日の地元説明会におきましても、住民の皆さんからお話をいただいたところであります。震度幾つまでという耐震基準やマニュアルはないという回答でございました。県のほうといたしましては、東北大震災を含めて、いろんな震災の調査報告を見る中で、のり枠、フリーフレームでございますけども、大きな変状がないというふうな説明を受けてきているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

このようなのり枠を施工する組織はフレーム協会ということであります。この協会は昭和50年に設立され、既に40年以上が経過し多くの工事を手がけてきましたが、のり枠の強度や耐用年数、そして震度幾つまでというのが明示されておられません。県の説明会の資料でも、東日本大震災の国土交通省の調査結果では、のり枠が崩れていないことから、のり面の崩落防止に寄与したというふうなことだけしか書かれておらないわけでありまして、耐震基準をしっかりとっていかねばいけないというふうに私は思います。また、この資料の写真を見ても、のり枠の規模ものり面の斜度も、筒石とは比べ物にならない小規模な現場であります。今後、のり枠の強度を示す耐震基準を定めるよう、国土交通省に要望をしていく必要があるというふうに思いますがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

道路土工、切土工・斜面安定工指針の中におきましては、地震時に対するのり面・斜面の安定に

については未解明の点が多く、耐震設計を明確に規定できていないという技術的な制約があるということが表記されておりまして、現時点では技術的な見地を最大限活用して、解明のために調査・研究を進めていくというふうな道路土工の指針の中では、そのようにうたわれておるところでございまして、今後とも早期の耐震基準の設定を期待するところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

やはり、これだけ大きな地震が多発しております。ぜひ、こういうものは、国土交通省にかけ合っ、早急に決めていただかなければいけないというふうに思っていますし、地元選出の内閣府副大臣、高鳥先生も大変、心配をしておりますので、先生を通じ国にお願いをしていただきたいと思いますというふうに思っております。

治山説明会の資料にもありましたが、東日本大震災に耐えたのり枠は、あれはほとんど山の中ののり枠であるということで、海岸沿いののり枠ではなかったように思います。筒石のように海岸に面していて、なおかつ、塩害や大雨などの複数の悪条件が重なり、そこに地震が発生することも考えられるということで、地元住民の不安も大変、大きなものがあります。この不安を払拭するには、非常に難しいことだというふうに思いますが、私はその不安を解消する方法として、今あるのり枠工ののり枠の強靱な機能強化を進めるとともに、落石防護柵や重力式擁壁などの構造物の整備も、早急に進めていく必要があると思っておりますが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

筒石のように5.9ヘクタールののり枠工、その直下に住家が連担しているという状況は、全国的にも珍しい規模の治山施設、状況だというふうに思っていますし、住民の皆さんの不安は、私も一緒でございます。県のほうに向けまして、住民の不安を、要望をしっかりと伝えていきますし、今、お話にありますように、別の意味での防災・減災施設機能というところでございますけども、地元からも機能維持でなくて、機能強化をしてほしいという要望をいただいておりますので、その機能強化に向けまして、この雨期の状況の確認をし、機能強化をするべき箇所が出てくれば、県のほうとしましては工法検討するということでお約束いただいておりますので、その調査結果を踏まえ検討をお聞きする中で、機能強化策に対して、また市のほうといたしましても強く要望してまいりたいと思っておりますし、それ以外の施設につきましては、とりあえず今、予定されております機能維持、機能強化の補修工事が終わった暁に、また県のほうとしっかりと協議してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

機能強化を進めるということは、これ当然やっていっていただかなきゃならない。先ほどの、課長言われたみたいにな数年かかるという工事がありますよね。この工事が終わってから、防護柵や重力式擁壁等をこれからどうするなんて話をしても、10年先、15年先という話になってきますよ。やはり、今からこの話を出していくべきだと思うんですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

機能強化を含めまして、今、お話の施設整備につきましても、地元の声として、しっかり県のほうに伝えてまいりたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

現地を見ますと、防護柵の設置されていないところ、また防護柵があっても昔の国鉄の名残のようなレールが立ってある、さびたレールが立ってあるというような、そんな防護柵が見受けられます。今後、さびた防護柵の取りかえや補強、重力式擁壁のかさ上げ、そして、何もなかったところの整備等を進めていっていただきたいというふうに思っておりますので、県との調整を早目に進めていただきたいというふうにお願いたします。

なぜ、私がこんなに話をするかといいますと、私、前にもこの場で申し上げましたが、小泊の死者を出した地元の地すべり、これも私のうちが土砂に押し潰され、土砂にのみ込まれていくというのを小学生のときに体験しております。あれから、もう既に50年たちましたけど、大きな雨が降ると、いまだに恐怖を感じているということでもあります。そういった恐怖を、地元の人たちにさせないように、落石防護柵や重力式擁壁の要望を強めていっていただきたいというふうに思っております。

また、地元が望んでいる機能強化対策の工法は、梅雨明けの説明ということで、私、伺っておりますが、現在の工事はとりあえずの補強工事、補修工事ということで、機能強化の工事ではないというふうなことであります。今年度の事業概要と事業費の内訳、そして予防治山事業から、緊急予防治山事業に名前が変更になったわけを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

まず、今年度、予定しております補修工事につきましても、5月23日付で地元で説明した内容でございますけれども、フリーフレームのひび割れの補修、それからアンカーボルトのボルト頭部の交換、それからフリーフレーム、のり枠の地山側に空隙が発生しておりますので、フリーフレームのモルタルの充填や、一部、空隙の大きいところにつきましても、取り壊しをして再設置をします。それから斜面に向かいまして縦系列で水路が設置されておりますけれども、その水路の補修もあわせ

て取り組みたい、補修したいということをお聞きしておるところでございます。

それから、今年度の事業費でございますけども約1億100万円の予定で、今、工事を進めていただいております。

それから、予防治山と緊急予防治山の違いについてご質問いただきました。

予防治山につきましては、私ども行政でいいますと交付金事業といえます。それから、緊急予防治山につきましては補助事業でございます。緊急予防治山の補助事業のほうが、予算のつきがいいということで、補助メニューを選んでいただきまして、今、事業に取り組んでいただいております。新潟県内では、緊急予防治山事業で新潟県内3カ所、治山事業に取り組んでいるというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

今のところ、補修工事しか進んでいないということですので、今後、早急に機能強化のほうの工事にもかかっているように要望していただきたいと思います。

地元では、梅雨の時期を迎えまして、大変、不安な日々を過ごしているというふうに、私は思っております。昨年の12月に、現地に傾斜計を設置したということで、斜面監視施設ということなんですかね、移動観測を行ってききましたが、現在までの調査状況はどうなっているのか、その経過を伺います。これは、傾斜計と斜面監視施設とは違うのかどうか確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

のり面枠に、既に傾斜計を13カ所設置していただいております。この傾斜計が海側のほうに、北側のほうに傾きが累積し続けると非常に危険ということで、県のほうからお聞きしておる傾斜計のシステムだというふうにお聞きしております。昨年の12月10日から、この5月10日までのデータをお聞きしますと、変位量が0.002ミリであります。最大値で0.24ミリでありまして、一方向への累積性のある変状は認められておりませんというふうな経過を聞いておるところでございます。引き続き監視を続けていただく予定にしております。

9番（中村 実君）

傾斜計と斜面監視施設。

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

失礼いたしました。

監視システムのほうにつきましては、この6月末までに新潟県のほうで契約をしていただきまして、斜面監視システムを県のほうで設置していただくことになっております。これにつきましては、5.9ヘクタールをおおむね3ブロックに分けてワイヤーを張って、そのワイヤーが切断した場合に警報が鳴ったり、あるいは回転灯が点滅したり、あるいは関係機関にメールでもって通信したりというふうな、移動観測とは違う監視システムでございます。このシステムにつきましては、

今回の6月議会に補正予算で運用の費用につきまして、市のほうで予算計上し、今後、運用していくということで、今回お願いしているところでありますのでよろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

ということは、傾斜計を、今まで設置したのは傾斜計であって、それではその傾斜計で移動観測を行ってきたけど、新たに斜面監視施設を設けたということでよろしいんですね。

これは、じゃ、両方とも連結して作動していくということで、この警報装置の発報方法というのは、ワイヤーが切れたときにサイレンが鳴ったり、移動観測、フレームが移動したときにサイレンが鳴るということですが、このサイレンが鳴ったときに、家の中にも聞き取れるのかどうかという、そういう試しはしてありますか。それと、実際に鳴らして確認したのかどうか、確認します。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

答弁が少し後先になって、大変、申しわけありませんでしたけども、斜面の監視システムにつきましては、地元説明会の中におきましても、13カ所の傾斜計だけでは不安だという地元の皆さんの声をお聞きし、県のほうで設置していただけることになったものでございます。5月23日の説明会のときにも、そのシステムについて地元説明がございました。

また、今、議員のほうからのご質問のように、警報装置の音が聞こえるのかというふうなご心配もいただいておりますのでございまして、今後は、現場で調整をしながら皆さんの声をしっかりとお聞きし、また、しっかりとした通報体制がとれますように、現地で調整しながら対応してまいりたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

今の答弁だと、まだ確認はしていないということですよ。

大体、このような大きな災害が発生するということは、大きな雨が降ったり台風みたいな風が吹いたりということで、外の音は非常にうるさいとき、そういうものも見越した中で、サイレンが実際にうちの中でも聞き取れるのかどうかという、そういうものも一度、試していただきたいというふうに思いますし、やはり、下のほうで、もし最悪、落ちてきても受けとめられるポケット的な施設も、今後、しっかりと要望していただきたいと思いますし、この筒石地区の問題は、全国的にも特異な事例だというふうに、私は感じております。今後、筒石・徳合地区ののり砕工の安全対策が、全国の模範になるような、地域住民の安全安心そして生命・財産を守っていただけるような工事にしていただきたいと思いますというふうに申し上げまして、次の質問に入らせていただきます。

次に、市内の地震時の構造物落石の箇所についてですが、この場所は小泊地域の尾山というところであります。ここの場所は、能生中や海洋高校の相撲部の子供たちが合宿している宿舍の裏山になります。私の質問が市内の危険箇所という質問の仕方だったので、ちょっとわからなかったのですが、後で担当のほうと少し場所だけは打ち合わせをさせていただきましたので、わかる範囲で少し答弁をお願いしたいと思います。

この尾山は断崖絶壁であります。今でも落石のある山であり、実際に住んでいる人たちは、筒石地区と同じく地震による落石の恐怖を感じております。この山は、弁天岩やとっこ岩のように安山岩の塊ならば、落石のおそれはないものと私は思っておりますが、この落石があるということは安山岩ではないのかなというふうに思いますけど、その辺の安山岩かどうか、わかれば教えていただきたいということと、この場所は地すべり指定地なのか砂防指定地なのか、ここの管轄は国か県か、その点を伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

ご質問の小泊地域につきましては、昭和38年に大きな地すべり災害が起きて、大きな災害があったところでございます。

今、議員ご質問の、特に白山神社周辺の尾山の地質につきましては、今現在、承知はしておりませんが、ご心配の付近につきましては昭和38年の地すべり以降、国土交通省の地すべり指定地が入ったり、またあるいは砂防の指定地が入ったりしておるところでございますし、一部、農林水産省の保安林が指定されておるところでございます。

少し調べてみましたが、非常に古くに指定された保安林でございまして、風致保安林といひまして、神社仏閣・景勝を保全するための保安林というふうな指定でございます。その後、住家も連担しまして非常に最近の異常気象等から、皆さんの不安も高まっておるところでございます。

現地のほうは、昭和52年に落石防護柵工が設置されております。県のほうとも少し相談をしてみましたけども、現在の風致保安林におきまして、保全対象となるものが変わってきておりますので、保安林の指定の仕方の変更も考えて、今後、安全対策を県と協議してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

大変、入り組んだ場所だということで、昭和38年の地すべりは、先ほど私が言った体験した地すべりでありまして、そこは若干場所が違うことと、地元ではこの山は尾山といって、白山神社の神さんの山だから崩れてこないんだということで、昔からそういう話がありましたが、最近はそのようなことも言ってもらえないほど地震が多発しております。ぜひ、市が中心となって、その辺を取りまとめたいというふうに思いますし、この山は筒石地区と同じく、家が数件真下にあります。大変危険な断崖絶壁でありますので、筒石はのり枠が落ちてくる、ここは落石があるとい

うことで違いはありますが、この辺は今もう草木が生えて、一部しか見えなくなっております。秋になれば、葉が落ちれば目視で点検ができますので、県を中心に地区長や地元の人たちをあわせた視察・点検を行っていただきたいと思います。その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

県のほうにおきましては、平成22年の6月に目視の点検をしていただいております。ランクとしてはCランクで、異常がないというふうに結果をお聞きしております。次期の施設点検は本年度に実施を予定しておるということでございますので、今、議員のお話がありましたように地元の方も一緒になって点検を同席する中で、また地元の声を県に届けていただくようなそんな対応を考えてみたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

平成22年6月、前にちょっと日にちは、この日にちだと思んですけど、点検したという覚えはあります。

ただ、地元の人たちは、今、一部見えるところは大きな割れ目が縦に入っている場所なんですよね。その割れ目が、恐怖を感じているせいかもしれませんけど、割れ目が去年よりちょっと広くなったよという話も伺っております。やっぱり、そういうことを払拭するためにも定期的に検査しながら、地域にしっかりと説明をしていっていただきたいというふうに思っておりますし、今ほど話をしてきました筒石や小泊地区だけではなくて、糸魚川市には危険な箇所が大変多くあるというふうに思っております。所管が国であろうが、県であろうが特に民家に近いところがあれば、災害、減災・防災という観点で調査していく必要を感じております。

また、市が管理する道路や治山施設などの緊急点検を行ったというふうに言っておりますが、この市が管理するところの結果、早急に対応する箇所があったのか、なかったのかを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

昨年の12月に、192カ所ののり面や擁壁工を点検いたしました。特に、人家の近いところ、学校、あるいは保育所の近いところの施設について点検をいたしましたが、特に著しい損傷のあるところはありませんでした。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番(中村 実君)

192カ所ののり面や擁壁の点検をしたということで、とりあえず、危ないところはないということで安心したところではありますが、これから梅雨に入ると川の水が随分ふえてくる。今の、これは市の管轄ではないんですけど、大きな川へ行くと河床整備が進んでいないところが随分あるんですよね。そうしたことによって、水害が発生するということも考えられます。その辺の点検をあわせてやっていく必要があると思うんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長(齊藤隆一君)

6月は国が土砂災害防止月間として、毎年、河川の点検等を行うキャンペーン期間でもあります。きょうも実は、国、松本砂防と新潟県と糸魚川市関係者が現地調査に入っておりますけれども、7.11から21年、姫川だけが問題ではありませんけれども、非常に激甚的な雨の降り方も、地球温暖化の関係で多くなってきているのも事実であります。河床もあらわれている箇所、多くありますので、市単独というわけではもちろんありませんけれども、関係機関と現地調査を含めて、そういった対策を万全にしていかなければならないというふうに思っております。

あわせて、ことしが蒲原沢の土石流災害から20年の年でもあります。砂防だけではなくて、やはり治水治山という幅広く河川にかかわる部分があると思っておりますので、しっかりとまた、現地を見ながら対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

中村議員。

9番(中村 実君)

蒲原沢から20年ですか。毎年、市長からお参りに行っていただいているというふうに私は思っております。大変ありがとうございます。

昔と違いますか、過去は結構、河床整備、しょっちゅうやられてたんですよ、工事は。最近予算の関係もあるのか知らないけど、河床整備がなくて河床にある雑木の伐採ぐらいしかやらないように思っております。今後、そういうところも見ながら、もしあったら、国や県のほうに話をしながら河床整備のほうも進めていっていただきたいと思います。

次に、ボランティアの受け入れ態勢について伺います。

最近では大きな災害とともに、日本各地から多くのボランティアが駆けつけてくれますが、現地は災害直後ということもあり受け入れ態勢が整っておらず、何も作業ができなくて帰る人たちが多くテレビで見られます。

もし、糸魚川市にこのような大きな災害が発生したときに、このボランティアが来られたときの受け入れ態勢、先ほど社協というふうな話もありましたが、この辺の態勢はしっかりと整っているかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

福祉事務所長（水嶋丈明君）

ボランティアの受け入れ態勢につきましては、平成19年度に社会福祉協議会のほうで、災害ボランティアセンター運営マニュアルを策定いたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

そのマニュアル作成はいいんですけど、多くのボランティアが来られたときに対応できるしっかりとしたマニュアルなのかどうかという、当然、それを見越したマニュアルだと思うんですが、その辺はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

福祉事務所長（水嶋丈明君）

そのマニュアルにつきましては、1,000人規模のボランティアさんが来られて対応できるような形でのマニュアルを整備いたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

東日本大震災のときに、福島から大勢の人たちが避難されてこられましたね。あのときは、受け入れ側で少し時間があつたんで、受け入れも楽だったと思うんです。私たちも、私の後援会でもボランティアで行ったんですけど、あのときは市の職員たちが一生懸命動いてくれて、トラブルもなく福島の人たちも大変喜んでおったということはわかります。そういうものをもとにして、つくっていったものだろうというふうに思うんですが、ただ、実際に大きな災害が発生したときに、1,000人のボランティアが果たして動けるのかどうかということですよ。

例えばマニュアルの中に、その1,000人が来たときに、すぐ仕事配分を決められるようなものがあるのか。また、宿泊施設はどこで泊まるのか。例えば地震の場合ですけどね、地震の場合はいろんなところが壊れており、どこで、じゃ、泊まるんだと。食事はどうするんだということも当然、書かれているというふうに思いますが、それは社協だけでやるのか。それかそういう人たちを、ボランティアをボランティアする受け入れ的なボランティアというところまで考えているのかどうかということを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

水嶋福祉事務所長。〔福祉事務所長 水嶋丈明君登壇〕

福祉事務所長（水嶋丈明君）

まず、ボランティア受け入れの態勢でございますが、ボランティア受付班、それからニーズ班、マッチング班、送り出し班、資材班、総務班等に分かれて、ボランティアの活動をするような形になっております。

また、ボランティアの受け入れにつきまして、宿泊施設それから食事等に係る部分でございますが、経費的な部分については、ボランティアは自己完結ということが基本でございますので、その部分の費用につきましてはボランティアの方の負担となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

ボランティアだから食事は自己持ちといたって、どこもかしこも壊れたときに、握り飯かんでくるわけじゃないんですよ。やはり、2日なり3日、飯も食わん水も飲まないということはできないわけ。それは、自衛隊が駆けつければそれは可能かもしれないけど、ある程度のそういうものの備蓄とか、そういうものも考えているのかということなんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今、ボランティアの形のところでお話をさせていただいておりますけれども、ボランティア全体を受け入れて活動していくためには、災害対策本部が中心になりまして、その中でボランティアの皆さんにどういう部分をお手伝いいただくかという部分は、社会福祉協議会がボランティアの受け入れの中心的役割を担ってまいりますけれども、連携をして進めないといけないというふうに思っております。

そういう中においては、災害後、混乱の時期から、それから避難者が少しずつ避難した後、どのような対応でその先を考えていくかというような時間的な経過の中で、ボランティアの方の役割も変わってくるかと思えます。そのような状況は、全体的には災害対策本部と連携しながら、その一部の役割を社会福祉協議会からも担っていただくということで進めてまいります予定でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

熊本地震の、今のテレビ見てもそうですよね。多くのボランティアが仕事できないで帰ってきちゃうんですよ。当然、熊本地震にしたって、いろんな災害を見て同じようなものをつくってきけると思うんですよ。それが、実際に生かされていないから、ああいう状況が起きる。だから、ものをつくればいいのか、そういうことじゃなくて実際に、じゃ、糸魚川だけじゃなくて青海、能生

の人たちとのどういうボランティアのつながりがあるのかということも、例えば私たち地元においても、そういうときは何かしてくださいという話も一度もないですね。そういうのもやっぱり、これから進めていっていただかなければいけないなというふうに思っていますので、いろんな事例を見ながら今後、もう少し踏み込んだものをつくっていただきたいというふうに思っています。

今の、熊本地震発生直後に、糸魚川市から3名の職員を派遣いたしました。どのような応援をしてきたのか、また何日間で何名が応援に行ったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

山本総務課長。〔総務課長 山本将世君登壇〕

総務課長（山本将世君）

お答えいたします。

私ども職員派遣につきましては、4月23日から5月28日、3人を一班として、7班態勢で職員を派遣いたしております。

派遣につきましては、被災地の支援はもちろんでございますが、被災直後の現状等を見ることによって、当市の防災対策、そういったものに生かしたいということを目的として派遣をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

今回の派遣は非常に早いということで、さすが米田市長だなというふうに、私は喜んでおります。

1週間交代で派遣した意図というのはいろいろあると思うんですけど、私、前にちょっと市長にも話したんですけど、3人が1週間ずつ交代するということは、交通費とかいろんな経費がかかると。何で1週間なのか、10日、15日というスパンでやったほうがよかったんじゃないという、ちょっと質問をしたこともあるんですけど、その辺の考えは、市長どんなかわかりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさに今、中村議員ご質問のとおり、我々はいろんな災害に対応しなくてはいけないという考えでありまして、本当に距離も離れておるわけでありまして、我々といたしましても今回の平成28年熊本地震については、職員を派遣することによって、ただ我々は情報をマスコミや画像だけのデータではなくて、生のやはり情報ということも収集しながら、いざ地元糸魚川に災害が起きたときの対応の手助けになればというような形で、情報収集を大きな目的の中に入れていただいて、数多くの職員が経験することが大切かという形の中で、このような態勢を組ませていただきました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番(中村 実君)

ありがとうございました。

ぜひ、職員が持ち帰ったノウハウを、もし何かのときに生かせるように、今後、努めていただきたいというふうに思いますし、ボランティアもやはり、各地域に根づいたボランティアというものも必要かなというふうに思いますので、今後もよろしく願いいたします。

次に、耐震改修工事について伺います。

いまだに、耐震改修工事が進んでいないということでもあります。私も耐震診断をしていただいたことがあるんですけど、なかなか基準が高過ぎまして、補強することによって建物の使い勝手が非常に悪くなるということと、建てかえするほどの費用がかかるということで少しやめたんですが、安価で命を守られる耐震シェルター・耐震ベッドの一般質問を前回しましたところ、新年度から予算をつけていただきまして、大変ありがとうございました。これが少しでも早く普及していくように、先ほどの答弁だと、回覧または広報で周知したということですが、大変、回覧の場合見づらい回覧だったんですが、もう少しその辺を改めて、もう一度出すという考えはありませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長(見辺 太君)

お答えします。

毎年、行われておりますこの支援事業でございますけれども、議員おっしゃられたとおり、ことしから耐震シェルター、あるいは防災ベッドなどのような物について補助を始めさせていただきました。

ことしは、5月25日号の広報にあわせて、A4版裏表で資料として回覧という形で配布いたしましたけれども、今、その中身をよく見てみますと、耐震シェルターとか防災ベッドが、いかなる物なのか、どういった物なのか、あるいは値段がどのぐらいからあるのか、そういったところが一部欠落しておりましたので、今後、広報あるいはホームページによって市民の皆さんに周知していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

中村議員。

9番(中村 実君)

ここにコピーがあるんですけど、大変見づらいんですね。もう少しわかりやすいものにして、もう一回PRしていただきたいということもありますし、これ、命を守るには大変安くて、20万円から30万円ぐらいで設置できるんですね。ただ、床を大工さんから直してもらわなきゃいけないということで、大工さん・工務店関係にも話をしながら、この辺を進めていただきたいというふうに思っています。よろしく願いいたします。

次に、新潟焼山について伺います。

前回、私の質問で防災マップの質問をしたところ、焼山・早川周辺にしか配布しないということで、それではまずいんじゃないですかという質問をいたしまして、市内全戸配布する必要があるだろうということで、市長から市内全戸配布いたしますという答弁をもらったわけですが、いまだにまだ配布されておられません。地元では、もう既に配布されているんですが、相当時間がたっていますけど、まだ配布されていないんですけど、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

お答えします。

新潟焼山の火山防災マップにつきましては、6月27日に上早川・下早川地区以外の市内全戸に配布する予定となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

なぜ、27日までなかったのかということ聞いておるんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

中村議員からご指摘をいただきまして、今年度の当初予算に印刷費を計上してございます。それによりまして、年度初めに印刷をかけまして、でき上がりが今ということで、配布を先ほど申し上げた日付で配布予定ということになったものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

ということは、これ早川地域で、まだ配布されていないということなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

早川地区につきましては、昨年配布済みでございます。それ以外の地域、中村議員からご指摘ありましたことについて、先ほど申し上げたように、今年度配布ということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

だから、なぜ時間の差ができたんですかと、一緒に市内全戸配布できなかったんですかということをお聞きしておるんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

昨年、早川流域、上早川・下早川地区に配布させていただきました。そのときには、全市内につきましては概要版の回覧というような形での周知を図ったものでございます。そこでは、やっぱり不十分だというご指摘もございました。そういう意味から、今年度、市内全戸に配布するという形をとらせていただいたものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

前回の一般質問のときに、地元だけ配布するという答弁を受けて、地元だけではだめだと、やっぱり市民全部が同じ認識を持つ必要があるんで、市内全部配布したほうがいいんじゃないですかということで、市長はわかりましたと、市内全戸配布しますよというふうに話したんですよ。それを、何で早川だけ先になって、全戸配布がこの6月27日までずれ込んだのかということをお聞きしておるんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

繰り返しになりますけれども、平成27年度当初予算にこの避難計画等が以前できておりますので、それはやはり地区に周知する必要があるなということで予算計上をして、早川地区のみの配布という形になったわけでございます。それで、先ほど申し上げたとおり、全市民に周知する必要がある、そうしないとなかなか周知ができないということでありましたので、今年度において予算計上して配布をさせていただくというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

ちょっとずれがあるので、またそれは話させてもらいます。

新潟焼山に一番近い湯川内集落で、6月2日と7日に避難対策会議を開いたということで、避難

方法を地元で検討したということですが、この会議に、新しく配布したその防災マップを利用して会議を開いたのか、また担当がこの会議に呼ばれたのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

湯川内地区から避難対策会議を実施したというふうに伺っております。避難対策を検討する上で、昨年実施いたしました住民避難訓練や、避難計画が掲載されておりますこの防災マップも活用されたものと思っております。

今後、消防職員も住民の貴重な意見をいただきたい、伺いたいと、そのために地区に出向き、一緒に検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

呼ばれてないんですよ、ここへ。マップを配っても呼ばれてない。果たしてそのマップがこの会議で実際に使われたのかどうか、たんすの肥やしになってるんじゃないのか、私、それを心配するんですよ。これは、車の運転ができない人や、ひとり暮らしの高齢者をどのように安全に避難させるかという会議だったということで伺っております。

これは、何でもそうなんです、市の職員も何かをつくって、一度配布すればいい、どこかへ置けばそれでいいというふうに終わっていくんですよ。そうじゃなくて、やはりマップを配布したらマップの使い道だとか、その後どうですかとかいう、そういうフォローもやっぱりしていく必要があるんですよ。何事も、市の職員もそうなんですけど、つくればいい、それで終わりという。金子部長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今ほどありましたが、住民の方が避難するわけでございますので、情報が共有されていないと現実的にはだめなわけでございます。今、中村議員がおっしゃるように、マップ等も周知するための1つの手段でございますので、それをご理解いただくということを、コミュニケーションを通じて伝えていくことが重要だと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

マップだけじゃなくて、市のこういう資料も何でも、つくれば終わりという状況が多いんだよ。

前もよく議会でも話が出ますよね。いろんなパンフレットをいっぱい作るけど、それをどこへ配られたんだと、全然周知してないんですよ、そのままなんだよ。このマップもそうだ。その辺はどうかと聞いておる。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

市のほうでは、いろんなパンフレットだとか、あるいはチラシだとかというもので、市民の皆様にお伝えする手段の1つとして取り組んでおります。

中村議員おっしゃるように、過去の状況の中では、十分活用されていないのではないかというものも、ご指摘はあった点があるかと思います。そういう点は、また教訓として改めまして、今おっしゃるように、市民の皆さんに的確に情報が伝わっていくように、そういうことで職員も地域に出向いて、コミュニケーションをとりながら情報が伝わって、一緒にまちづくりというような観点も含めて、防災の視点も含めて取り組んでいくことが必要だと思っておりますので、そのような取り組みを進めてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

これから、マップが全戸配布されるということですが、焼山温泉、向こうには2つの温泉がありますよね。やはりそういうところに、地元の人たちも行くんですよね。情報がないと、何かあったときには大変危険だと。また、その施設に消防が出かけて、お客さんの避難誘導の仕方とかという、そういう話はしてありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

消防長（大滝正史君）

温泉施設の方々にも、火山防災協議会の一員となっていていただいておりますし、温泉施設の皆さんも火山災害からお客さんを守ると、どのように避難させたらいいかというような危機感を持っておられます。今後、温泉施設の皆さんと連携をして、うちのほうも現場に出向きまして、お客さんの避難対応について検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

中村議員。

9番（中村 実君）

ぜひ、せっかくなつく防災マップでありますので、それを活用しながら地元の住民だけではなくて、そういう施設に行く市外の人たちも、安全に避難できるような態勢もっていただきたいと思いますし、ジオパークのまち系魚川市には多くの災害が考えられるということで、今後も市民の

防災意識の向上を高めるような取り組みをしていただきたいことをお願いいたしまして、私の質問を終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

吉川議員。〔1番 吉川慶一君登壇〕

1番（吉川慶一君）

おはようございます。

創生クラブの吉川慶一です。よろしくお願いいたします。

1回目の質問をさせていただきます。

1、新潟焼山の火山活動について。

新潟焼山は、ことしに入り小規模な噴火が確認されていると発表されました。昨年末から噴煙量も多くなっており、過去の噴火も視野に入れ、住民への情報発信が必要かと思えます。気象庁によると観測では、新潟焼山は火山性地震もやや増加していると言われていますが、市としてどのような対応をされているかお伺いします。

(1) 新潟焼山の火山活動が活発化し、昭和49年の水蒸気噴火と同程度の噴火が起きた場合、素早い情報が必要とされています。市として今後、情報伝達を初め、防災対策をどのようにされるのかお伺いします。

(2) 登山者に対する注意喚起の現状はどのようになっていますか。また、情報の公開はされていますか。

(3) 妙高戸隠連山国立公園に新潟焼山が含まれていますが、現在新潟焼山は登山規制がされています。規制区域外の環境保全や観光振興の公園として、防災対策をどのようにお考えかお伺いします。

2、地域おこし協力隊・集落支援員について。

(1) 地域おこし協力隊について。

地方公共団体が、都会からの転入者を地域おこし協力隊員に委嘱し、隊員は地域特産品の開発等、地域おこしの支援や住民の生活支援など地域協力活動を行いながら、その地域へ定住・定着を図るとあります。全国で多くの地域おこし協力隊の方々活躍されていますが、糸魚川市の地域おこし協力隊の主な地域と、期待される活動についてお伺いします。

どこの地域で活躍されていますか。

具体的にどのような協力活動をされていますか。

(2) 集落支援員について。

集落支援員は、職員と連携し、集落の目配りとして巡回・状況把握を行っており、現在、活動されている集落支援員の皆さんに感謝しております。次のことについてお伺いします。

集落支援員の配置は、いつから実施されているのか、集落との取り組みの現状と今後の課題をお伺いします。